

# 全 仏

NO. 227

4 / 52



## 仏教の使命

四月一日より、世界仏教徒会議  
日本大会実行委員会が、設置され  
た。

昭和五十三年十月一日まで、跋  
すところ五百四十有余日。まだま  
だ先のようにもあるし、やらねば  
ならぬことを数えあげて行くと、  
少々足りない気もする。

現在、仏教について種々の論評  
がなされている。おおかたの声と  
しては「仏教は休息している」と  
いうような内容のものが多い。極  
論としては「死んでしまった」と  
いう人もある。

しかし、過去の輝やかしいその  
軌跡を思い浮かべるとき、休息はし  
ているかも知れないが、その間にも  
未来に向ってのエネルギーの蓄  
積はなされている。この移りかわ  
りの激しい世の中に適応して行く  
のは、並大抵のことではないの  
だ。

漸うで良いのだ。しかし確実に  
退くことを無く、真の道を教え示  
すことが使命である。

写真は東京本願寺大谷ホールで開  
かれた世界仏教徒会議日本大会準  
備委員会総会 一面記事参照

# WFDB日本大会

## 実行委員会が発足

三月十二日午後一時半より、東京本願寺大谷ホールにおいて、第十二回世界仏教徒会議日本大会準備委員会第二回総会が開催された。

準備委員九十余人のうち、五十四名が出席し、定刻より少々遅れて開会され、

田辺哲崖全日仏理事長挨拶のあと、麻布照海準備委員長が座長となって議事がすすめられた。

まず準備委員会を実行委員会に移行する件が審議され、準備委員会各委員の今後のご苦労を感謝するとともに、今後のご助力を願う言葉のあとで承認。

次に事務局より、新しく御就任を願った委員の紹介がされ、実行委員を代表して西口公教委員（真言宗園分寺派）に、田辺理事長より委嘱状が伝達された。

つづいて、実行委員長と副委員長の選出がはかられ、選考委員会を別にもうけその委員は、準備委員会小委員会の委員があたる旨の事務局案が採択された。別室にて協議の結果、次の方々が選考された。

実行副委員長 桜井大乗師

浅井堅教師

白幡憲祐師

新間信雄師

真深義貫師

若林隆光師

なお、委員長については、副委員長の

互選によって桜井大乗師が推挙されたが東京都仏教連合会の機関承認を経たのちに、正式決定されるはこびになる。

この選考経過が、全体にはかられ承認された。

次に 実行委員会の各種委員会の構成にうつり、事務局より各委員氏名と各委員長が発表された。これに対して、委員会間の委員移動や追加等の意見が提出され、事務局より各師の意志を十分尊重して考慮させて頂く旨の発言があった。直ちに九委員会に分かれて種々の問題に対して、熱心な討議がなされたが、実行委員会としては初会合であるので、顔合せとおたがいの意見の交換が主なものであった。

この後、桜井師の音頭で乾杯が行なわれ、来年十月の大会を目ざして一層の努力を重ねていくことを確認した。



(総務委員会)

- 浅井 堅教 伊東 堅純 桜井 大乗
- 塩入 亮達 白幡 憲佑 白川 良純
- 杉谷 義純 中田 千朗 西口 公教
- 西村 輝成 真深 義貫 和田 仁雅
- 黒田 白純 四宮 正音 村瀬 博道

(勸募委員会)

- ①阿部 竜文 久保 竺太清 清水 谷孝尚

- 新間 信雄 鈴木 靈孝 千坂 精道
- 持田 貫宣 柳 了堅 和久 博隆
- 中山 富士 岩本 昭典 芝村 智豊
- 寺田 康順 黒田 武志 若麻 續真人

- ②大越 孝仁 小崎 竜雄 笠井 照道
- 北之内 真龍 倉茂 良海 郡司 博道
- 小林 昭延 井村 胤成 丸山 宗隆
- ③麻生 恵光 池田 泰道 勝部 広正
- 川口 良信 北河原 公典 小林 忍戒
- 斎 隆套 大石 好文 花田 英忠
- 藤田 良英 山下 通雄 小林 慶存
- 渡辺 尚道 清胤 徹昭 松下 教道
- 浅井 自香 高吉 清順 高島 広勝

- (渉外委員会)
- 長田 順海 猪瀬 宝山 小沢 省元
- 門屋 大寿 黒川 孝樹 小出 秀峰
- 古宇田 亮文 酒井 謙祐 神野 真一
- 土持 良栄 福井 豊信 藤井 真水
- 土佐 舜成

- (広報委員会)
- 河野 亮永 永倉 嘉文 摩尼 清之
- 中村 啓識 阪口 祐瑞 村野 宣忠
- 秋葉 善弥 大倉 律現 楠 興雅
- 佐藤 良純 島 啓隆

- (典式委員会)
- 若林 隆光 伊藤 完夫 石上 慈敬
- 梶原 隆也 神原 帰逸 田中 文盛
- 田野 憲宥 仲田 順和 新美 孝道
- 福島 光信 坂本 観晃 北島 経昭
- 宮城 泰年 井上 日宏 五島 行宣
- 新井 智清 吉田 啓堂 高辻 円雄

- (会議委員会)
- 金岡 秀友 小宮 勝憲 伊東 康雄
- 岩佐 哲雄 後藤 純一 田沢 友海

◆...実行委員の委嘱状の伝達



中根 専正 北条 賢三 望月 良晃

山田 一真 真柄 信雄 西郊 良光

美濃部薫一 小倉 俊明

(接待委員会)

板橋 宥成 内田 大寛 及川 真介  
大橋富士子 横谷 淳宣 近藤 隆敬  
能邨 英士 簾本 宏昌 船口 暉子  
壬生 照順 池田 瑩輝 八橋 秀雄  
前田 達現 織内 七郎

(経理委員会)

大島 見道 中 恵念 岩脇 宏信

和田 龍宏 友繁 禪弘 村松 賢英

(記念事業委員会)

花山 勝友 佐伯 真光 宝田 正道  
田村 完誓 奈良 康明 野呂 幸進  
橋本 照稔 松涛 弘道 安田 圭司  
杉村 宗文 川島 宏之 小笠原隆元  
板東 性純

# 大会準備経過の中間報告

昭和五十二年五月二十六日、タイ国のバンコクで開かれたWFB執行委員会に出席した桜井大乗全日仏事務総長(当時)は、第十二回大会の日本開催を非公式ながら要請された。十月一〜二日に開催された全日本仏教徒会議兵軍大会に全日仏提案「世界仏教徒会議(WFB大会)」を日本で開催しよう」が採択された。これをうけて十月二十一日、全日仏国際専門委員会が第十二回大会開催案を検討、数回の会議を経て「第十二回世界仏教徒会議日本開催に関する答申」を出す。十二月十四日にバンコクで開かれたWFB執行委員会の席上、清胤徹昭全日仏国際文化局長(当時)は、日本開催の要請に考慮中と返答した。十二月二十二日の常務理事会(智積院)では大会開催の積極的な意見はなかった。

昭和五十一年一月十九日に開かれた十大家派宗務総長会議(智積院)では開催の方向づけがなされたが、予算を極力つ

めるよう要望があった。一月二十五日の理事・評議員会(ソートビル)で「第十二回大会」を日本で開催してもよいとの方向が出た。二月十九日にバンコクで開催された「第十一回世界仏教徒会議タイ大会」のWFB執行委員会に出席した鱒淵正浩全日仏事務総長は「他に開催をすところがないければ日本で開催してもよい」と発言、二月二十四日の同全体会において次回大会開催地を日本と決定。三月十一日には国際専門委員会が日本開催準備世話人会設置を提議し、四月十二日の常務理事会(東京プリンスホテル)で設置が承認された。

四月十六日に十八名からなる準備世話人会が発足し、昭和五十三年十一月一〜六日を予定期日とし、マスタープラン委員会を作り細目を検討するという方針をだした。四月三十日にはマスタープラン委員会が発足し、数次の会合にてプランを練る。五月十六日の全日本仏教徒会議

去る三月十一日午後六時より東京浅草の浜田商店会議室において、花山勝友、佐伯真光、松涛弘道の各師にお集まりいただき、仏教英語学生の養成について話し合った。

仏教英語学生養成は、明年十月に開催される第十二回世界仏教徒会議日本大会の記念事業の一つとして計画されているもので、仏教英語の研修を通して、

(1)募集について 原則として大学二、三年生を対象とし、大正 駒沢、立正、東洋、武蔵野、鶴見、宝仙等の各大学より二、三名御推薦をいただくと共に、ポスター、新聞等により公募する。

(2)期日 昭和五十一年五月より、毎週一回平日の午後六時から、ほかに年一回、集中講義を行う予定。

## 仏教英語学生研修生を募集

### WFJB日本大会記念事業

国際的視野をひろめ、海外との仏教文化交流の場で活躍する者を育成することを主眼として、更には、これを機会に永続的組織をつくろうというものである。また、世界仏教徒会議開催の際には、海外代表のコンパニオンとして活躍してもらうことになっている。

十一日の会合で決定した募集要項は以下の通りである。

(3)講師 花山勝友、佐伯真光、松涛弘道、小笠原隆元、田村完誓、奈良康明、坂東性純の各師が当たる予定。また、場合により外人講師を招聘する。

(4)申込先 WFB日本大会事務局  
台東区西浅草一―五―五  
(全日本仏教会内)

〇三(83)六三四一〜三  
(5)締切 四月末日

三重大会には「第十二回世界仏教徒会議日本大会を成功させよう」との提案に、仏教徒は全力をあげて募財に協力しようという決議がなされた。七月二十一日に開かれた宗務総長会・常務理事会(和順会館)において宗派負担金、加盟団体協力金、準備委員会の発足などが承認されたが、九月十六日の理事会(東京本願寺)において、準備委員会が発足してもその中に小委員会を作りより細目を検討するよう提示された。

十月六日、準備委員会発会式(東京本願寺)が行なわれ、準備委員長に麻布照海、副委員長に岡野貴美子・若林隆光・真溪義貴、桜井大乗の各師が選出されたあと、経過報告、準備世話人会案説明さ

れ、小委員会の委員を選出した。小委員会は十月二十二日に初会合をもち、いままでの計画を反省総括、勸財と企画の二委員会に分れ、より実現可能な計画となるようにつめていくこととなった。十月二十九日に企画委員会が開かれ、大会組織、人事、日程、テーマ、趣意書などについて検討することとなった。十一月八日は勸財委員会が開かれ、大綱としては今までの全仏事務局案を踏襲するが、歓迎大会については募金と動員を切りはなして計画を立てていくことになった。

十一月十九日のマレーシア国ペナンで開かれたWFB執行委員会に石川国際部主事が出席、第十二回大会開催の日本案を提示し承認を得た。また今後の準備運営についても大幅に日本の自由が認められることになった。

## 第12回世界仏教徒会議 日本大会開催趣意書

日本文化の歴史において仏教の果たした役割は、その全てが仏教であると言えるほど重大なることは万人の認めるところでありましょう。一方現代では進歩革新の名の下に仏教の価値を歪め、矮小化しようとする傾向のあることも否めません。

しかし仏教を置いて他に、今日の、そして未来の世界人類を救済する指導原理があるでしょうか。一部のものが無知から仏教を軽視して得々としているとき、

十一月三十日の常務理事会（東京本願寺）で麻布照海師を事務局長と決め、十二月二十三日の十大宗派宗務総長会議（和順会館）では各種の要望が出された。

昭和五十二年一月二十一日の準備小委員会です算、日程、組織についての案をまとめ、一月二十六日に開かれた常務理事会、宗務総長会、理事、評議員会（京都ホテル）に提示し承認を得た。これにより二月九日には実行委員の推せんを加盟団体に依頼、二月十日にはテーマの公募を発表した。二月十七日の準備小委員会で勸募趣意書は一般向けと寺院向けとに分けて作成することとなり、二月二十四日に寺院向け、二十五日に一般向け趣意書について検討した。三月十一日には仏教英語学生養成のための予備会が開かれ具体案がだされた。

科学文明に行詰った人々や、困難な環境に置かれた国々の民衆は、仏教こそ唯一最高の教法として、これを求め、これをまもっているのです。

われわれ日本の仏教徒はこの持てる宝に新しい息吹を与え、求めるものには手をさしのべ、まもっている人々とは手を携えて、人類の未来を光あるものとする義務があります。

昭和二十七年戦火の余燼さめやらぬ焦土の上に第二回世界仏教徒会議を開催した先人の志は、物資の欠乏の中に全てを見失いかけていた人々の魂をよみがえらせ、わが国再生の第一歩を踏み出させました。それから四半世紀、今われわれが

物の豊かさに弱れながらも繁栄への反省と人類の未来にのぞく深淵への怖れを憂う心を失わずにいるのは、日本文化の中に多年仏教がたちかって来た教行の余薫ではないでしょうか。

全世界に六十余の支部を結成して仏陀の光を守りつつあるWFB世界仏教徒連盟の人々は、来る昭和五十三年十月わが国に開催される第十二回世界仏教徒日本大会に会合して、世界の現状を、人類の未来を照す具体的方策を練るべく強く期待しています。

今こそわれわれはこの強き期待に応えて第十二回世界仏教徒日本大会を成功に導き、わが国の文化思想の中に仏教の持つ正しい位置を広く認識させ更に高揚させると共に、集い来る全世界の仏教徒と衆智を結果して、人類の未来にみ仏の光を仰ぐよう、全日本仏教徒の大奮起大結集をこい願うものであります。

## 第12回世界仏教徒会議 日本大会「挨拶

謹啓 時下ますます御清祥大慶に存上げます。

さて昭和二十七年第二回世界仏教徒会議をわが国に於て開催し宗教の面においても平和文化国家仲間入りの念願を果し併せて全日本仏教会結成の成果をあげてから既に二十五年が経過致しました。この間主として勤勉な国民性は四囲の状況の赴く処と相まって世界各国がわが国の経済的進展を驚異の眼を以て迎える程に

なりました。しかしそれに伴って漸く社会秩序の混乱、公害、国民老化等の諸問題が相ついで繰起して参りましたことも周知の通りであります。

わが仏教界がそれらの問題に対しそれぞれの場面で努力対処して参りましたことは申すまでもありませんが成果については必ずしも理想を達成し得ているとは申し難い現状といわなければなりません。仏教界の過去の栄光を思えばわれれに奮起一番の大努力が要請されていること今日ほど切なるときは無いと申せましよう。

御承知の通り昭和五十三年十月には第十二回世界仏教徒日本大会がWFB世界仏教徒連盟全支部の要請をうけて開催されます。世界各地の仏教徒取わけ仏教圏アジア諸国の代表は開発途上の国情とも考え合せ現在将来の社会に対し仏教の果し且持つべき役割についての指導をわが国に求められわれの想像以上の期待を持って参会するものと思われまます。

このことはまた仏教自体、とりわけ大乘仏教の存在理由が問われることでもあり今日些か停滞の観ある仏教界全般の活動を促す仏天の呼声でもありましよう。平生各界部門に御活躍の貴君におかれては何率事情察察の上日本仏教界百年の大計がひいては未来人類の福祉安寧に直結する現状に思いを致され別紙事業計画並びに募金要領に奮って御賛同の上特段の御協力を賜わりますよう衷心よりお願ひ上げます。

仏教を現代に生かそう  
いのちを大切に

埼玉大会の準備進む

スローガンなどきまる

来る十月七日に開催される第二十五回全日本仏教徒会議埼玉大会についての準備委員会が二月二十四日・三月十二日に全仏会議室においてひらかれ、諸事決定をみた。

大会スローガン「仏教を現代に生かそう」いのちを大切に」

要旨

はかり知れぬ財宝をうちに秘めながら、その真価が世に知られぬもの―それは仏教である。いまや、人類をあげて未来への不安におののきつつあるとき、われら仏教徒は、世界の苦悩を救い、来るべき時代の指導原理たるべきものは、仏教をおいてほかにないと確信している。問題は、仏教のもつ宝をどのようにして現代生活にいかし、全人類共有の財産とするかの具体的方途にある。

昭和二十七年、日本仏教徒の大同団結なつてよりすでに四半世紀、その方途は着実に実行に移されつつあるが、しかも前途を望めば、理想達成は遠い未来に属する。第二十五回全日本仏教徒会議埼玉大会開催にあたり、われらは一層、責務

の重大さを自覚し、目標達成を誓わねばならぬ。

明年十月、全世界の仏教徒代表を集めて、世界仏教徒会議が日本で開催されようとしている。仏教徒がより広い国際的視野に立って、人類と仏教の将来を考える時が、まさに到来した。埼玉大会においても、われらは空論を排し、現実眼を向けて、仏教を現代にいかす道を討議したいとおもふ。

西に秩父の山々を望む関東の沃野埼玉県に志ある全国の仏教徒が参集されたことを。

以上

なお各部会のテーマも決定した。

第一部会(僧侶)  
仏教を現代に生かす具体的方策

第二部会(檀信徒)  
日常生活に仏教を生かす具体的方策

第三部(婦人)  
婦人の生活に仏教を生かす方策について

第四部会(青年)  
青年の生活に仏教を生かす具体的方策  
これらのテーマにそった具体的な提案

が全仏教加盟団体からよせられることを願っている。

埼玉大会準備委員会の構成メンバーは次の通りである。(敬称略)

委員長・桜井大乗

委員 松涛弘道、佐伯真光、花山勝友

伊東堅純、白川良純、若林隆光、摩尼清

之、井上日宏、板橋宥成、郡司博道、船

口暉子、新聞信雄、清水谷孝尚、柳了堅

小出秀隆、北之内真竜、山本道隆、河野

亮永、押野見順榮

予算きまる

実行委員会結成

財団法人埼玉県仏教会(会長大島見道)では、三月十四日、浦和の埼玉会館で第三回全仏大会準備委員会を開き、協議の上、第一回実行委員会に切換えることを決議、実行委員長大島見道、副委員長に岩崎鳳栄・山本道隆、事務局長柳了堅、同次長河野亮永氏をきめ、実行予算を次の通り決定した。

第25回全仏会議埼玉大会実行予算

収入の部 二、八五八万円

一、全仏交付金 一五〇万円

二、寺院協助力金 一、二二五万円

三、特別賛助金 一、〇〇〇万円

四、大会参加費 四五〇万円

五、雑収入 三三万円

支出の部 二、八五八万円

一、会場・設備費 六八万円

二、謝礼費 七〇万円

三、参加者昼食代 八五万円

四、記念品代 二四〇万円

五、印刷通信費 二〇〇万円

六、広報活動費 三〇〇万円

七、会議費 一〇〇万円

八、紀要等作成費 三四〇万円

九、勸募費 一三〇万円

十、事務局費 五〇〇万円

十一、宗派及県仏代表者会議 七五万円

十二、埼玉基本金 五〇〇万円

十三、雑支出 五〇万円

十四、予備費 一〇〇万円

以上

寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 浜田商店

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)

電話 代表 (841) 4965

# 商標登録について

日本宗  
教連盟

商品化される宗教用語や紋章

日本宗教連盟（構成団体＝教派神道連  
合会、全日本仏教会、日本キリスト教連  
合会、神社本庁、新日本宗教団体連合  
会）では、宗教用語の商標登録をめぐる  
係争がここ数年にわたり多発し、そのた  
め宗教界内部において混乱をまねき、迷  
惑のかかる教団もみられるため、一昨年  
より本理事会においてこの問題を取り上  
げ、審議を行なって来た。

年々経済情勢が急速に進展するに伴  
い宗教用語、紋章などが商標、商品化さ  
れ、商標登録出願が増発し、問題は深刻  
化しつつある。

この宗教用語の商標登録が宗教界の問  
題となったのは、十数年前、宗教界外  
の人によって知らぬ間に商標登録がなさ  
れるという事件に端を発し、調査した結  
果、「南無妙法蓮華経」「南無阿弥陀  
仏」「心経」「般若」「般若心経」「妙  
法」「靈鑑」等が登録申請されていたこ  
とが判明した。その後世界救世教より、  
「メシヤ」「大日本みろく教団」「みろ  
く教」「みろく神教」などについて次々

と商標登録の申請がなされた。

このため本連盟では昭和五十年一月二  
十四日（当時庭野日敬理事長）名をもつ  
て、特許庁長官宛要望書を提出するはこ  
びとなった。これは今後の混乱を防ぐた  
め、宗教の本質的なものが失なわれない  
よう考慮して「宗教上、および宗教団体  
に関連のある用語」の取扱いについては  
慎重に善処されることを文化庁宗務課を  
通し特許庁へ要望し、それと併せて、加  
盟協賛団体、都府県宗教連盟、各宗教団  
体代表者宛「宗教用語等の商標登録につ  
いての自粛」のお願いをした。その後特  
許庁の方々と本連盟幹事並びに各協賛団  
体関係代表者をまじえ懇談会が持たれ、  
今後はこれを連絡会として三カ月おき、  
または必要に応じ開催することを申し合  
わせた。

昭和五十二年三月、青森県の一業者よ  
り日本酒「イエス・キリスト」なる商標  
商品が申請されており、こうした宗教用  
語の商標登録申請については何らかの法  
的措置が望まれるものであります。

以上のごとき現状で、先般、全仏を通  
して御依頼いたしました「紋章」につい  
ても申請物件への防禦資料として特許庁  
へ提出するものでありますので、今後と  
も何卒よろしく御協力を賜りますよう  
お願いいたします。



商標登録申請された紋章の例

真の合掌の心を生む御仏像を

檜の一刀彫聖観世音菩薩

今日の空しいことの多い人間社会の中で、仏の偉大な力  
を授かるうとする人々は数多くおります。  
そんな時、我が心の寺院が、戦前戦後の混乱期に、尊い  
御尊像を失って、魂こそ残ってはいますが、お姿の見ら  
れない、という話を聞きます。ここに当協会の長年の指  
導のもとに観仙一門が心血を注いで謹刻しました一灯、  
一華を献じさせられる気持になる聖観世音菩薩立像です。  
限定木彫として、宗教法人の皆さまに格安にて御奉仕さ  
せていただきます。

お申込み方法は電話又はハガキでお問い合せ下さい。

受付電話

東京03(八二六)五六四一



全長 84cm (2.75尺)  
材質 檜  
価格 ￥ 320,000

日本彫塑普及協会御尊仏奉仕部

〒113 東京都文京区白山一―三―一―二〇二号

電話 03 (八二六) 五六四一

# 静岡県仏も追放決議

## 締め出し各地に広がる

### 黒い法要

静岡県仏教会（小倉日宝会長）では二月十四日の理事会において「黒い法要・葬儀」の拒否を決議した。

これは第二十四回全日仏三重大会の決議や、静岡県警察刑事部第二課の要請に基づいて、暴力団による黒い法要の追放を決議したものである。すでに青森・徳島・茨城・山梨・大阪・三重・長野など数多くの県仏が黒い法要を締めだしているが、この度の静岡の決議はこれに続くものがある。

### バン格拉ディシユの孤児に愛の手を!!

バン格拉ディシユは、印パ戦争の影響や、モンsoonなどの天災によって大きな被害をうけ、おびただしい難民に混じって、幾多の孤児が飢えと病いに苦しんでおります。

協力下さるよう伏してお願ひ申し上げます。

#### 目的

バン格拉ディシユ国ダッカ市在タンマラージカ仏教孤児院・チッタゴン市在アグラサラ仏教孤児院に対する救援

#### 送金先

東京都台東区西浅草一の五の五(財)全日本仏教会事務総局  
振替 東京2・59547

(財)全日本仏教会

口座 東海銀行浅草支店

一三五―四三七 全日本仏教会・鎌田良昭

#### 主唱

財団法人 全日本仏教会

何卒これら幾多の孤児救済のために皆様の善意を伝達いたしたく、救援資金の募集をいたしておりますので、御

決議文は次のとおりであるが、なお一層各県仏においては、暴力団組織を維持拡大するための資金集めを目的とするような、いわゆる「黒い法要・葬儀」の追放に努力下さるようお願いいたします。

「我々仏教徒、就中寺院住職は、広大無辺なる仏陀の精神に則り、仏教で強く正しく生きぬこう」をスローガンとし、如何なる圧力にも屈する事なく、本会の目的の一つたる「明るい社会の建設と平和世界の実現」とに向って、積極的に寄

### 文化専門委員会開く

委員長に真溪氏再選

三月十五日午後二時より、全日仏会議室において文化専門委員会が開催され、左記の議題について討議された。

#### ①委員長選出について

文化専門委員の互選という事で、前委員長の真溪義貫氏（東洋大学理事長）が再び選出された。

#### ②WFB日本大会への協力について

ほとんどの委員の方が実行委員として

### バン格拉救援寄金

一万二千八百円

中伊豆立正大題目講（静岡）

三千円

高知てつ子

二千円

横川喜美子（岐阜）

与しなくてはならない。そのため特に、暴力団による所謂「黒い法要」と呼ばれる「威力誇示や資金集めに利用され、又その恐れのある葬儀・法要等」に関しては、勇氣ある毅然たる態度をもって断固これを拒否する事。又、檀家・知人であっても、暴力団員、あるいはそれと思われる筋から、葬儀・法要等の申し込みがあった場合は、すみやかに警察へ連絡する事。右、決議する。静岡県仏教会」

協力するが、文化専門委員会としても日本大会に全面的に協力していかうということになった。

#### ③三重大会の決議事項について

第二十四回全日仏三重大会決議事項のなかで文化関係の「仏教的生涯計画をたてよう」・「文書伝道を普及させよう」等について話しあわれた。生涯計画については人口問題・老人問題など非常にむずかしい問題をふまえて研究していかねばならず、いずれ仏教徒読本のようなものを編纂すべきであるという意見がだされた。文書伝道については第二十五回全日仏埼玉大会の会場において寺報・寺通信・伝道ハガキのほかポスターなどの展示をおこない、できれば優秀作品には賞をだしたらどうかという話し合いがされた。（ただこの場合は何を基準とするかなど判定が難かしい、或いは優劣はつけるべきでない、などの意見もだされた）

#### ④その他

来年度の日本仏教文化会議については

例年通り八月下旬に開催する予定で、共催の国際仏教交流センター(孝道山)と話し合い、運営委員会にて細目を決めることとなった。

(出席者) 摩尼清之、門屋大寿、河原長晴、島田喜久子、真溪義貴、榊原煥逸、白川良純、若林隆光

### 日蓮宗の遺骨収集

沖縄で七百十七柱

日蓮宗では、沖縄戦戦死病没者第三十三回忌の追悼法要を四月三〜四日に、摩文仁の平和公園にて執行するが、その前駆事業として、沖縄の山野に今なお散在する遺骨収集を行なった。

収集団は、喜屋武地区を中心に雨風をいとわず二十日の収集作業により、七一七柱を収集、遺骨は茶毘に付し、識名の中央納骨所に納め、代表遺骨は厚生省の手を経て千鳥ヶ淵戦没者墓苑に納領された。

### ◆掲◆示◆板◆

#### 法華宗陣門流新人事

▼法華宗陣門流では水本大岳宗務総長の退任に伴い、新しく鈴木昭吾師が宗務総長に選ばれた。それにより新内局は左記の通りとなった。

宗務総長・鈴木昭吾、総務部長・布施慧光、教学部長・牧野琢成、教化部長・土屋善敬、財務部長・星川恒雄

#### 真言宗智山派人事

▼智山派では任期満了に伴う役員選定がおこなわれ、左の人事となった。

宗務総長・別所弘因、総務部長・小沢照禧、教化部長・岡本実良、教学部長・高野一能、法務部長・斎隆套、財務部長・大津頼宥、出張所長・渡辺直行

#### 関東甲信越静ブロック会議

▼関東甲信越静ブロック会議は、長野県仏教会の担当で、六月二十日に善光寺を会場に開催する予定です。関係各県仏におきましてはよろしくご出席下さるようお願いいたします。

#### 山階派住所表示変更

▼真言宗山階派宗務所は住所表示の変更により(京都市山科区勸修寺仁王堂町二十七番地)となった。

#### WFB執行委員会の予定

▼WFB執行委員会は五月二十八日、プレイング長も出席して、東京開催の予定です。

#### 事務総局録事(三月)

- 二日 局内会議
- 八日 WFB事務局ミーティング
- 九日 戦災慰霊法要参列(浅草)
- 十一日 仏教英語学生養成打合せ
- 十二日 埼玉大会準備委員会
- 十五日 WFB準備委員会
- 十五日 文化専門委員会
- 十六日 局内会議
- 二十三日 文化庁事業報告会出席
- 二十五日 WFB総務委員会
- 二十六日 仏教文化伝道賞贈呈式出席

本堂、ご仏前、客殿、廊下その他寺院内の敷物に

# あかね毛氈



最近寺院内での敷物用としてご好評をいただいております。お召物が汚れないこと、座布団が不要の点で重宝がられています。全国どこへでも発送致します。特別頒布価格にて奉仕いたします。カタログご希望の節はお申越し下さい。

発売元

## 白井フェルト株式会社

東京都台東区寿3丁目1番7号 〒111 ☎03-842-3841

製造元

## 丸新フェルト紡織株式会社